飛鳥宮跡活用検討委員会(第６回)議事の概要

日　時：平成30年1月12日(金)　14時00分～16時15分

場　所：奈良県文化会館

出　席：委員長　田辺　征夫

委　員　黒田　龍二、櫻井　敏雄、染川　香澄、寺西　和子、仲　隆裕

古瀬　奈津子、増井　正哉、松村　洋子、森川　裕一

（欠席：小林委員、菅谷委員、田島委員）

事務局　奈良県公園緑地課

関係課　奈 良 県　南部東部振興課、文化資源活用課、平城宮跡事業推進室

文化財保存課

明日香村　総合政策課、文化財課

【事業効果の発現と検証システム等について】

○「事業の進捗を図る」という表現で整理されている項目がいくつかあるが、単に事業を行っていればよいのではなく、何のために行っているのかが伝わるよう「事業効果の発現を図る」と踏み込んだ表現にしてほしい。

○イベント等を実施する際には、来訪者(ゲスト)が楽しんでいるか、内容が分かりやすく伝わっているかなどの効果を測るための「オーディエンスリサーチ」を行って、その結果を次の展開に活かしていくことが重要。

○個別のイベントだけでなく、事業全体の効果を検証し再構築していくようなシステムづくりについて記述しておくべき。推進体制や組織に関することでもある。

○事業の主体を明確にすべきではないか。

【史実に関する記述について】

○飛鳥の宮で始まったとされる史実に関する記述については、内容をもう少し詳しく記載し、何が初めてなのかわかるようにしたほうがよい。

○内容の軽重で順序は決められないので、時代順に並べたほうがわかりやすいのではないか。

○いくつかの説がある場合もあるが、高校用の教科書などを参考にして、より一般的なものを採るとともに言葉もそれに準じておくほうがよい。正確な記述とすること。

【歴史的風土・景観の保全について】

○飛鳥宮跡の活用において景観を考える際には、単に景観に調和している、影響を与えていない、いうのではなく、これからの景観の更新や整備の見本にならないといけない。歴史的風土・景観の形成に貢献するという方針が必要ではないか。

○現に残っている景観がよいのだという評価があるとすれば、それ自体は「守る」という表現が必要だろう。また、建物の復元など新たに造ったものが、飛鳥の歴史的風土・景観を大きく改変せず、よりよくしていくものだというのはかなり難しいと思われる。あまり大きな影響を与えない範囲で徐々に変えていくということではないか。

○飛鳥宮跡から天香久山を望むところでは、飛鳥時代を感じさせる景観がなく1950年代しか見えてこない。できるなら、活用の取組の中で古代を感じさせる景観が形成されることを期待したい。

○鄙びた田舎のイメージを持って訪れた来訪者に、新たに復元した建物がポツッと建っていても受け入れてもらえるかどうかわからない。由来等をうまく説明できるよう工夫して、一般の観光客にも、飛鳥は日本の原点ですごいところだと納得してもらえるようにしてほしい。

○歴史的風土・景観の保全の方針のところで、復元する塀の高さと見え方を検証した図があるが、ここまでなら建ててもよいと決めているように伝わってしまうかもしれない。これが景観の検討の核心ではないし、資料としてバランスを考えて、ほかの活用の部分の記述と同様に、参考となる事例や、古代から受け継がれた山並みの代表的なもの、地域の人々が守ってきた田園や集落の景観、それから発掘調査等で整備した飛鳥の遺跡整備の状況の写真などを、本文と対応させて示すのがよいのではないか。

【活用に関する記述について】

○日本の首都として最も繁栄していた古代の飛鳥と、現状の飛鳥宮跡、一般的に日本人がイメージする飛鳥との間には、大きなイメージのギャップがあると思う。そのギャップを埋めながら飛鳥を世界に発信できるよう工夫することが重要。

○活用の取組を行う際には、博物館や研究所など研究機能とセットになってはじめて、よりよいものになっていくと思われる。既存施設の活用ということもあるが、研究機能の必要性について構想に記述してほしい。

○基本構想の段階では、「理想的」な活用方法を記述することができるが、現実にその全てを実行できるかというとなかなか難しく、その過程に様々な試行錯誤の段階があると思われる。建物の復元は厳密にしなければならないが、一方で活用をメインに考えると建物にもフレキシビリティが必要になる。理想を現実に移す段階で何に重点を置くのかという選択が必要になる。

○「遺構を表示する」の箇所で、事業のイメージを表す図が大きく掲載されているが、具体的すぎて、イメージを固定してしまう恐れはないか。また、コンピューターの描画が硬いので、類似の参考事例の写真などのほうが無難ではないか。

○古代を表現する方法を新たに考えていくというブレイクスルーを表すとすれば、イメージ図のほうが雰囲気が出るのではないかと思う。ただ、行催事の例など構想にしては具体的すぎるものがあるので、サイズを小さくするとか、事業イメージであることを明記するとか、地色を変えてコラム的に記載するとか工夫したほうがよい。

○「明日香村における歴史的風土の保存及び生活環境の整備等に関する特別措置法」に基づいて、県が策定する「明日香村整備計画」の第５次の計画期間と、この構想が想定する期間とがほぼ重なるので、関係性を明確にしておくべき。

【次回委員会に向けての追加・修正等】

○事業全体として効果の発現を検証し再構築していく仕組みについて、今後の取組のところに記述し、フロー図にも追加する。

○この構想の策定主体は奈良県であり、「飛鳥宮跡の活用については、奈良県が中心となり、国及び明日香村等の協力を得ながら事業を進める」ことを記述する。

○「歴史的風土・景観の保全の方針」については、本日の審議を踏まえ、記述を改めるとともに写真等についても差し替える。

○活用の展開例や史実に関する記述についても、本日の審議を踏まえ、所要の修正を行う。

【次回の委員会は、3月29日(木)午後に開催の予定】